

2017年7月1日発行

第 99 号

エコ・リサ通信

特定非営利活動法人
埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

平成 29 年度 総会 報告



第 13 期通常総会報告

平成 29 年 5 月 18 日（木）武蔵浦和コミュニティセンター8階、第 7 集会室において司会より会員数 64 名（3 月末現在）出席 47 名（本人出席 18、委任状 29）により、本日の社員総会は定足数を満たしており、成立している旨を述べて、開会を宣言、個人会員の清水守氏を議長に平成 29 年度通常総会が開催されました。

【石川会長】 開会にあたり石川会長からの挨拶と、来賓として埼玉県環境部資源循環推進課、安藤宏課長様より祝辞を頂きました。（HP にて全文掲載）



【安藤課長】

議題

第 1 号議案 平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）事業報告承認の件

第 2 号議案 平成 28 年度活動計算書、財産目録及び貸借対照表承認の件

第 3 号議案 平成 29 年度役員選任の件

第 4 号議案 平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）事業計画承認の件

第 5 号議案 平成 29 年度活動予算承認の件

議長は上記議案を上程し、議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決しました。

平成 29 年度役員は会長に石川恵輪氏が就任し、理事 11 名及び監事 2 名が再任されました。

【理事 11 名】石川 恵輪、大前 万寿美、上領 園子、齊藤 勉、高木 康夫
高橋 茂仁、土淵 昭、轟 涼、中澤 啓子、原田 史、宮田 尚美

【監事 2 名】島田 憲一、平田 繁

総会記念講演報告

「エコ・リサの25年」：テーマを手掛かりに、ごみ・環境問題を振り返る

初代会長 大江 宏

1 はじめに

現在「エコ・リサ」との関わりは多くはないので、テーマを語るに相応しい者ではありませんが、発足当初に関わった一人として、またエコ・リサは、自分の環境問題やごみ問題への大事な原点・実践のフィールドであり、私のエコ・リサ時代を振り返る機会を頂き感謝致しております。



2 「エコ・リサ」の発足

1) エコ・リサ発足（1993.）のころ、すなわち1990年代初頭の社会状況は、ご存知のように、バブル経済がはじけ、成長第一主義、開発主義、巨大企業のグローバルゼーションなどのツケが顕著になり、ふと足元を見れば、自然破壊・環境破壊、地域破壊、ごみ問題などが急速に進行していて、またオゾン層破壊、地球温暖化、世界各地の環境破壊など地球規模の環境問題がメディアでクローズアップされ、人々の関心が高まらざるを得ない時代でした。

1990年のアースディのイベントで娘と一緒に地元を歩いた時、茶畑に散乱するペットボトル、狭山丘陵に不法投棄された産廃に驚きましたが、それは各地で発生しているごみ問題の一部だったのです。

2) 埼玉県「リサイクル団体交流集会」（1990）を機に、エコ・リサ前会長の高木康夫（JC埼玉ブロック）さんたちが奔走して、県内リサイクル団体のネットワークづくりへの取り組みが始まり、設立準備会を経て、1993年11月「埼玉エコ・リサイクル連絡会」が発足しました。

本連絡会は、従来のリサイクル団体の連絡会ではなく、「エコ・リサイクル」を目指し、市民(団体)・事業者・行政など全関係者が参加し、パートナーシップを目指す新しいネットワークと位置付けました。JC埼玉ブロックの参加・協力と県のサポートは、発足当初からその趣旨に合うものでした。

3) 「エコ・リサイクル」の「エコ」は、「エコロジー」を導き手に「エコノミー」を活動の推進力とする二重の「エコ」を意味していました。環境配慮と保全に貢献し、経済性・効率性にも優れた持続可能で循環的・共生的なリサイクルを目指そうというものでした。

税理士法人 T&M ソリューション

毎月第2水曜日は「税の無料相談日」 お気軽にお問い合わせください！

お問合せ ☎03-5829-9664 E-mail info@tms.or.jp

3 エコ・リサの発展

エコ・リサはその後、高木前会長・石川現会長のリーダーシップと全役員の協力の下で、大きく発展してきました。特徴の変遷を簡単に表現すれば次の点があります。

- ・交流・情報交換型ネットワーク⇒学習・自前の調査分析活動の活発化⇒提案・啓発・情報の蓄積と発信などの活動へと発展・深化。さらに、地域社会や国際的貢献にも活動が拡大
- ・設立 11 年目の 2004 年には、NPO 法人化で組織体制を確立し、事業活動（総会、記念講演、研修見学会、交流集会、講演会、学習会、委員会など）を活発化、充実化
- ・他方、組織の担い手の高齢化、若い世代の加入不足、活動量の増大と負担増などの課題



4 おわりに

エコ・リサを取り巻く環境変化も進んでおり、さらなる進化が要請されていると思います。

- 1) 『循環型社会白書』(H28)にあるように、自然の循環と経済社会の物質循環、すなわち「二つの循環の調和」が重要であり、川下だけでなくモノのライフサイクル全体をとらえる視点が大切である。
 - 2) 環境省「循環型社会形成に向けた意識・行動調査結果」(H29)にみるように、3R全般に関する意識が減少傾向にあり、また具体的な3R行動は、高い行動は高く低い行動は低いままの状況への対応も考えていかなければならない。
- (以上)

創業
昭和3年 **珍来**

www.chinrai.co.jp



読売旅行

読売旅行「あなたの街から」いい旅 いつも これからも
さいたま営業所 ☎048-640-4343 FAX048-644-7674

エコ・リサ総会講演会後の意見交換

司会 : 意見交換に先立ち、当会の初代事務局長の土淵さんにお話をお願いします。

土淵さん : エコ・リサが毎年行っている2大イベントは研修見学会と交流集会で、他にも多くの活動を行っていてその主な目的は環境問題、主としてごみ問題に関する情報収集・交流および得られた知識の普及啓発を実施しており、それはそれで重要なことであるが、もう少し具体的にごみを減らし、資源化推進を実行するための活動、特に県や自治体へ働きかけるとともに、協働して実行に移すことに力を入れる必要があるのではないか。

例えば埼玉県の焼却炉は建設以来年月が経って老朽化しているものが多く、建設し直さなければならなくなっているが、焼却炉の建設には莫大な費用が掛かり、国や自治体も財政が厳しい中で今後の重要な課題になっている。

狭山市(人口15万3千)では、燃やすごみを1/10以下に減らして焼却炉も1/10以下の小さなもので間に合うような施策の提言をしました。

この提言書は土淵が原案を作り、NPO法人さやま環境市民ネットワークの名前で狭山市長に提出したもので、5月25日に狭山市の環境経済部長並びに資源循環推進課と具体的な推進方法について協議をいたしました。

この協議は今回が第1回目です。今後何度も打ち合わせを重ねて推進する予定になっています。皆様のお住いの自治体でも推進出来たらよいな、と思います。

岩田さん : 連絡を取り合って、県のニーズにも応じていくことで、活動の幅がひろがるのではないかと。

高橋さん : エコ・リサイクルの名前の“リサイクル”は陳腐化していないか？

焼却炉を減らそう！とかエコ・リサの事業が方向性を持って行った方がよいのではないかと。という事を考えると名称も考え直しては？

河登さん : 高橋さんの会の名称についてのご意見に賛成です。具体的にどのような名称にすべきか、と言うご提案があれば是非お聞かせください。

長岡市のバイオマス事業は、私も見学したが経済性が良く分からない。つまり、長岡市だからできる特殊ケースなのか、普通の自治体にも適用できる一般的なケースなのか。土淵さんのご提案が実現すれば、普通の自治体でも適用できる、ということになり、素晴らしい。狭山市長に出された提言を見せて頂けるか。

土淵さん : 市は経費の事ばかり言うので、財政のコスト削減のできる提案書を出した。

隣の市とかと協力して一緒に作る(施設を)方法もあるが、それではなかなか前にすすまないで、まず、狭山市でやろうということになった。去年、市の職員に話して賛同が得られたが4月になったら課長が移動になってまた振り出しに戻ってしまった。

市長に持って行かなければ動かない。

老朽化した焼却炉は沢山あるので、そこへ提言してゆけば良いのではないかと。



街を遊ぶ！食べる！極める！

www.townnavi.info/saitama

河登さん : 市との交渉の中で出された問題をまた知らせていただけるか？

土淵さん : そうなったら HP に載せても良いのでは？

岩永さん : 行田・鴻巣・北本で新しく焼却炉を作る予定があり、提言したいが、検討委員は市会議員とかで、専門の人はいない。

土淵さん : 何処に生ごみの処理施設を作るか？が難しい。決まれば企業がお金を出すので、企業誘致もでき、市がお金を出さずに工場ができる。

中川さん : ごみは市町村任せで県は広域化に機能していない。

高橋さん : 行田・鴻巣・北本の今はどうなっているのか？

草加はまわりの 5 市 1 町で事務組合を作っているが、広域化の悪い所は市の行政マンが及び腰で動けない

岩田さん : 組合と行政で責任が曖昧になり、ごみの問題がたらいまわしになる。

上領さん : 鶴ヶ島市、毛呂山町 越生町 鳩山町の 1 市 3 町で組合をつくっているが、毛呂山町では“生ごみは入れません！”のごみ袋を無料で配り、焼却ごみの減量に努めている。生ごみは畑に持って行ったりして処理する。

焼却ごみが減れば負担金が減るので、負担金の事を訴えれば市長も協力する。

次の焼却炉は鳩山町に作るようになったが、人口も減りごみも減っているので小さくなった。

今までの焼却炉の跡地はリサイクルプラザや分別施設にし、いずれは焼却炉もなくなるように運動している。

寺川さん : プロジェクトや提案を行政に行うだけでは、実行に至らないことが多いということがままありました。これからの協働ということを考えると行政（市長、担当部署）とのパイプや連携だけではなく、立法（議会）、企業などステークホルダーへの働きかけが必要になります。その視点が必要です。

さいたま市のゴミの有料化は以前から話があったのですが、議員の反対（有権者の 1 票 がこわい？）があり実現しませんでした。また桜環境センターができたことにより最終処分率が低下したこと、ゴミの排出量が下がっていること、最終処分場所確保に余裕ができたことなど、緊急性がなくなったこともあります（さいたま市大崎周辺で埋めていた最終処分ゴミを掘り起こし、桜センターで最終処分しています）

石川さん : 交流集会は当初県が主催だったので県が予算をつけてくれたが、温暖化とか自然エネルギーとかに予算がいつてしまい今は自前で開催している。

各地の審議会等にも多くの方が関わっているので、もっとコミュニケーションを図れるようにしたい。

長岡市の取組が特殊な例なのかどうか？町田市が生ごみの分別回収を計画しているらしいので、今後の動向に注目していきたい。

当会も財政面や新しい方の参加など体質改善をはかったりして持続可能な会にしていきたい。

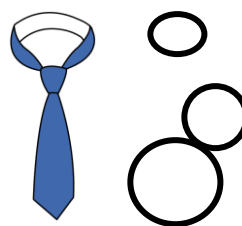
かつての財政難は回避して運営しているが、各個人のスキルの高さとかでカバーしている面が多にある。他の方に代われない側面がある。

かつてエコ・リサは敷居が高いと言われたことがある。専門性が高いと多くの方が集まりにくい。多くの方に集まっていたくには間口を広く、敷居が高い??という誤解?を取り除く努力が必要。どのような方向性でいくのか今後議論が必要である。

(以上)

～グリーンコンシューマー委員会～

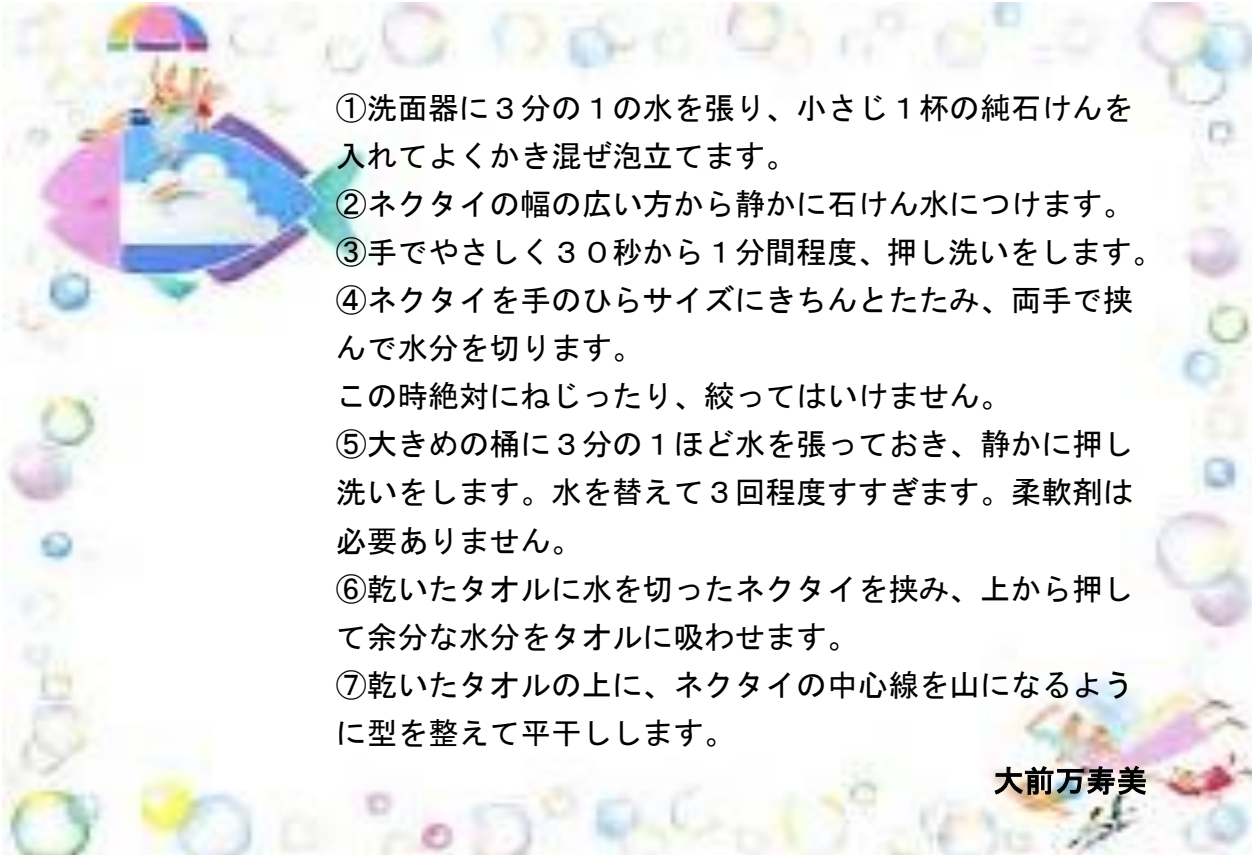
純石けんを使って シルクのネクタイを手洗いしましょう



暑い夏、ネクタイが臭ったり薄汚れていると感じたら、クリーニング屋さん頼らなくても、環境にやさしい純石けん（粉末）で簡単に洗えます。

ポイント

- シルク素材のネクタイは、乱暴に洗うと型崩れします。ソフトに取り扱しましょう。
- しみや折り目部分は指先でトントンとたたくようにして洗うと見違えるようにきれいになります。



- ①洗面器に3分の1の水を張り、小さじ1杯の純石けんを入れてよくかき混ぜ泡立てます。
- ②ネクタイの幅の広い方から静かに石けん水につけます。
- ③手でやさしく30秒から1分間程度、押し洗いをします。
- ④ネクタイを手のひらサイズにきちんとたたみ、両手で挟んで水分を切ります。
この時絶対にねじったり、絞ってはいけません。
- ⑤大きめの桶に3分の1ほど水を張っておき、静かに押し洗いをします。水を替えて3回程度すすぎます。柔軟剤は必要ありません。
- ⑥乾いたタオルに水を切ったネクタイを挟み、上から押しして余分な水分をタオルに吸わせます。
- ⑦乾いたタオルの上に、ネクタイの中心線を山になるように型を整えて平干しします。

大前万寿美

司法書士竹内啓修事務所

お問合せ ☎048-963-6055

不動産・商業登記全般



一般社団法人 繊維リサイクル協会

<http://tera-jpn.or.jp/index.html>

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

1 メダルプロジェクトとは

第32回オリンピック競技大会が2020年7月24日（金）から8月9日（日）まで、また、東京2020パラリンピック競技大会が2020年8月25日（火）から9月6日（日）まで開催されます。公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、両大会のメダルの原材料と

なる金・銀・銅に携帯電話などの小型家電から取り出したリサイクル金属を活用する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を開始しました。

プロジェクトマーク



（出典：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ）

2 小型家電とは

小型家電は、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律（以下「小型家電リサイクル法」）に規定されています。小型家電リサイクル法は、金などの有用な金属が多く含まれているにもかかわらず市町村により十分に回収されてこなかった資源（「都市鉱山」と呼ばれています。）をリサイクルし、有効活用するために制定されました。消費者が通常生活で使用する電気機械器具のうち、効率的な収集運搬が可能であるなどの要件を満たすものが対象となりますが、回収できる品目は市町村ごとに異なります。

3 参加方法

このメダルプロジェクトに参加いただく方法は次の2通りです。

(1) プロジェクト参加市町村などによる回収

埼玉県内では29自治体（平成29年5月31日現在）が参加しています。プロジェクトマークのある回収ボックスや回収拠点を利用してください。※具体的な回収品目や回収方法は、お住まい

の市町村にお問い合わせください。

(2) ドコモショップでの回収

使用済み携帯電話、スマートフォン又はタブレット（ドコモ以外の端末でも可）を回収しています。ただし、その他の小型家電の回収は受付けておりません。※詳しくはドコモショップにお問い合わせください。

4 目的・効果

このプロジェクトは、日本のリサイクルの取組を海外にアピールするとともに、日本国民が参加して使用済小型家電由来の金属からメダルを作製することを通じ、オリンピック・パラリンピック後にも続く循環型社会の構築に資する”レガシー”となることを期待するものです。

※ぜひ、みなさまの御協力をよろしくお願いします。



エコ・リサ25周年記念誌への原稿募集のお知らせ

エコ・リサの活動も、2018年には25周年を迎えようとしています。
 その記念誌に、会員のエコ・リサにおける活動や取り組みについての寄稿を募集いたします！！今から、構想を練り、ふるってご応募くださるようお願いいたします。
 ご応募は、ホームページ右下の ≫ お問い合わせ ≪ よりお願いいたします。



エコ・リサ研修見学会のお知らせ

エコ・リサ研修見学会24年目の今回は、盛りだくさんに埼玉県内の大小の発電施設やリサイクル施設を見学します。

実施日：平成29年8月24日（木）（昼食各自負担）

参加費：1名 会員 3,000円・非会員 4,000円 募集30名

（バス代、見学費、資料代を含みます）旅行代金の一部をエコ・リサが負担いたします。

申込み締め切り 8月10日〔木〕（但し、定員になり次第、締め切りとさせていただきます。）

行程表

集合場所 JR 埼京線川越駅西口 集合出発時間 8：30（時間厳守）＝関越自動車道＝
 寄居 彩の国資源循環工場見学（9：30～11：40）＝道の駅おがわまち昼食（11：55～12：45）＝小川風土（13：00～14：00）＝大村商事(株)見学（15：00～17：00）＝北朝霞（武蔵野線）朝霞台（東武東上線）17：20頃解散

※詳しくは同封のチラシをご覧ください

編集後記：99号をお届けします。いよいよ、次号は100号です！エコ・リサの活動も25周年を迎えます。記念誌には皆さまの、エコ・リサと共に行った活動や取り組みをぜひお寄せください。お待ちしております。轟 涼

ゴトグループ
 快適な環境づくりのお手伝い。
 村岡営業本部 ☎048-537-0555
 ゴトグループ 検索 <http://www.510goto.co.jp>